

第2版 はじめに

本書の初版は、2011年9月に上梓されたが、それから6年以上も経ち、この間にITは劇的な進歩を続けている。その中心となる技術は、AI、ロボット、IoT、ビッグデータ処理、自動運転である。これらのものは互いに関係しながら世の中に多大な変化をもたらそうとしている。

AIにより今後10年から20年間で半数近くの仕事が失われるといわれているが、一方では、それ以上の新たな仕事を発生するといわれている。また、AIを搭載したロボットは、職場や家庭などあらゆる場所で活躍するようになる。

IoTにより家電、車、カメラ、センサーなど、あらゆるモノがインターに接続され、自動検知や遠隔監視や遠隔制御が可能になり、これらを利用した新しいビジネスモデルが出現する。

また、ビッグデータの解析により多数の事象の解明や予測が可能となってくる。これをAIで利用することにより今まで人間にしかできなかった多くの作業を自動で行うことが可能なる。その最たるものが自動運転である。

一方では、圧倒的に企業側に主導権があった経済活動が、生活者がビジネスの起点になるように変遷してくる。CGM(Consumer Generated Media)での生活者の声は、企業活動を左右し、シェアエコノミーは、モノの所有から利用へと人々の生活を変化させて経済活動に大きな変化をもたらす。

このような活動の基盤となっているのがインターネットであり、インターネットビジネス(インターネットを利用した活動の総称)はますますその重要性を増している。

インターネットによるデジタルな取引(電子決済)は、現金の利用を消滅させる。北欧では、すでに現金が消えつつある国が存在し、中国でも都市部では、現金を扱わない店が増加している。また、スマートフォンのアプリは、社会のあらゆる場所で利用されるようになり、その利便性を高めている。たとえば、欧米や中国ではUberなどの配車アプリを利用しないとタクシーを呼ぶことが困難になっている。

今回の第2版では、これらの変化を踏まえ、IoTによる新しいビジネスモデルや、ビットコインに代表される新しい電子マネーなどの最新の動向を取り込んだ。また、本書で取り上げている、各種統計データを最新とした。各種統計調査データは、毎年変化するため最新のものを共立出版ホームページの下記のURLよりダウンロードできるようにもした。

<http://www.kyoritsu-pub.co.jp/kenpon/download.html>

本書は、わかりやすく、読みやすいことを念頭に多くの事例をあげて説明している。このため、文系、理系の大学での授業とともに、社会人の方々にも利用していただけるように配慮し

た書き方となっている。

ぜひ、多くの大学の講義でご利用していただけますよう、何卒よろしくご厚意申し上げます。
また、本書をまとめるにあたって、大変ご協力を戴きました、未来へつなぐデジタルシリーズ
編集委員長の白鳥則郎先生、編集委員の水野忠則先生、高橋修先生、岡田謙一先生および、編
集協力委員の松平和也先生、宗森純先生、村山優子先生、山田園裕先生、吉田幸二先生、なら
びに共立出版の編集部の方々および島田誠氏に深くお礼を申し上げます。

2018年3月

片岡 信弘
工藤 司
石野 正彦
五月女 健治

はじめに

ここ十数年間で世界的に急速なインターネットの普及拡大と技術発展はめざましい。同時に、インターネットは生活の中に多くの利便性をもたらした。インターネット上のバーチャルな空間でメールやブログ、Twitter を使って多くの人といつでもコミュニケーションが可能である。商品やコンテンツ、情報なども簡単に手に入れられるようになった。今なお、インターネットビジネスは様々なビジネスモデルを創造して発展を続けている。

本書の目的はインターネットが日常生活で不可欠となっている時代に、インターネットを利用するビジネス全般の基礎を学ぶことである。また、本書は大学の講義で使用する教科書としてインターネットビジネス全体の概論についてまとめたものである。本書で扱うインターネットビジネスとは、ネットワーク化された技術を利用することにより、モノ、サービス、情報および知識の伝達と交換を効率的に行うことである。本書はインターネットビジネスのユーザの立場に立った視点から書いている。また、コンピュータやブロードバンドなど、多少の基礎知識を有する技術系や文科系の学生を対象に、インターネットビジネスにおけるビジネスモデル、電子商取引、電子決済、デジタルコンテンツ、マーケティング、ネットワーク、情報セキュリティ、ウイルス対策、インフラ技術、電子認証、情報倫理と法、将来動向など多方面にわたって概説したものである。

本書の構成は以下の通りである。

インターネットビジネスの定義、歴史、特長、動向について、第1章の「インターネットビジネスとは」で紹介し、第2章の「ビジネスモデル」で、代表的なビジネスモデルの B to B, B to C, C to C, ネットコミュニティ (SNS)、ポータルサイト、デジタルコンテンツ、ビジネスモデル特許などを概説する。

また、第3章の「電子商取引」では、電子商取引の定義、非eビジネスとの違いを紹介し、

- (1) B to B (B to B の事例、電子入札、マーケットプレイスなど)
- (2) B to C (B to C の事例、ネットモールなど)
- (3) C to C (C to C の事例、ネットオークションなど)
- (4) 取引の変化 (ロングテール、デル・ダイレクト・モデル)
- (5) 電子商取引の動向などについて概説する。

電子商取引で不可欠である「電子決済」は、第4章で電子決済の定義、電子マネーの種類および、発行残高の推移、IC カードによる電子決済の仕組みについて概説する。

一方で、第5章で消費者の需要が高まっている「デジタルコンテンツ」の種類と、デジタルコンテンツの配信技術とビジネス展開などについて紹介する。

第6章では、「インターネットマーケティング」を紹介し、第7章で「検索エンジン」を述べ、第8章で「データマイニング」の活用を挙げて、これらの各章で、消費者の購買行動の変化、インターネット広告の動向、検索エンジンの重要性和仕組み、SEO、データマイニングによるマーケティング、リコメンデーションの仕組みについて紹介する。

また、インターネットビジネスのための「インフラ」は、第9章にASPとISPを取り上げる。インターネット関連のセキュリティ関連について第10章「情報セキュリティ」と第11章の「コンピュータウイルス対策」で、セキュリティの脅威の種類、情報漏えいのパターン、情報漏えい防止策などについて挙げ、コンピュータウイルスの種類と被害、ウイルス対策を概説する。

インターネット利用者を認証するための「電子認証」について第12章で挙げ、電子認証暗号方式、電子署名について概説する。「インターネットビジネスの倫理と法律」について、第13章で紹介する。

最後に第14章で「インターネットビジネスの動向」について紹介する。また、各章に学習のポイントやキーワードの復習と演習問題、そして、第15章で全体のまとめ、演習問題、巻末には用語集を追加して、教科書を活用しやすくした。用語集があるので、各章の用語でわからないことがあるときに参照できるようにしている。

ぜひ、多くの大学の講義でご活用いただけますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。また、本書をまとめるにあたって、大変ご協力を戴きました、情報系教科書シリーズの編集委員長の白鳥則郎先生、編集委員の水野忠則先生、高橋修先生、岡田謙一先生および、編集協力委員の松平和也先生、宗森純先生、村山優子先生、山田圀裕先生、吉田幸二先生、ならびに共立出版の編集部の島田誠氏、他の方々に深くお礼を申し上げます。

2011年9月

片岡 信弘
工藤 司
石野 正彦
五月女 健治